

レジャー研2016 第一部 「会社を『卒業』して社会と生きる」

NPO法人あい・ぽーとステーション 子育て・まちづくり支援プロデューサー

福田 崇さん（進行）・宮内 謙吾さん・山田 邦壽さん・武部 寛聡さん」

あい・ぽーとステーション人材養成室長 古閑 祐樹さん

皆様こんにちは。本日の講演の第1部は、あい・ぽーとステーションの、私たち「子育て・まちづくり支援プロデューサー」が担当します。私は、この第1部の進行を担当します福田です。どうぞよろしくお願ひします。

#### ■「まちプロ」とは？

「子育て・まちづくり支援プロデューサー」——大変長い名前ですが、小さなお子さんたちはもちろん、お母さん、お父さん、行政関係の方たちからも、略して「まちプロ（さん）」という愛称で呼ばれています。また、私たちは（今着ている）Tシャツをユニフォームがわりに、単独ではなく、チームとして活動しています。

それでは、まちプロについてももう少し詳しくお話ししましょう。言葉で定義すると、子育てを軸とした支援活動をつうじて、地域に貢献していく定年前後の男性、といえます。

まちプロが生まれるきっかけになった養成講座の募集のキャッチフレーズは「ベテラン企業人が現役時代の名刺で勝負」。この名刺という意味は、肩書じゃありません。企業人・組織人として培ってきたスキル、能力を定年後、地域の子育てに活かしませんか？というサブタイトルでした。六本木ハリウッドホールで大々的に記念シンポジウムを行い、300人以上のマスコミや行政、教育関係の方が集まり、大盛況となりました。その後第1期の養成講座が開講になったのが3年前です。あい・ぽーとステーションがスタートしたのが12年前ですから、まちプロは比較的新しいのです。今はもう4期ですが、第1期するとき、応募してきたのは60名以上のシニア男性、認定までいったのは、そのうち40名ぐらいでした。

#### ■まちプロになったきっかけ

その40名の講座の参加動機を調べてみると、おおむね以下の3つに分かれたように思います。まず一つめ、定年後に、社会と何らかのかかわりをもっていきたい、あるいは社会に貢献してみたいという気持ち、二つ目は、子育てにほとんど関心がなかったというより、できなかった時代の私たちシニア男性の「後悔と懺悔の念」、最後は、報道を見た奥様の後押しです。奥様の温かいご配慮ですよね。「濡れ落ち葉」にならないように、「あなた、行ってらっしゃい」と送り出されて養成講座に加わった。大きくこの3つに分かれるよう

な感じがします。逆に、定年後に会社やNPOを起こしたい！といった人たちは、この40名の中にはほとんどいませんでした。

#### ■ 1か月にわたる専門的な養成講座

養成講座はおよそ1か月にわたる何十時間という長丁場ですが、あい・ぼーとステーションの代表理事である、恵泉女学園大学の学長であると同時に日本の子育てに関して内閣府の様々な委員を歴任している大日向雅美先生をはじめ、ほかにも汐見（稔幸）先生、榊原（洋一）先生など、子育てでは日本でトップクラスといわれている先生方が講師としてやってくるんです。私たちはこういう著名な先生から直接、今までやったこともない子育てについての、いろいろなことを学びました。また、中にはグループ討議などもあります。皆さんももともとは企業人ですから侃々諤々の議論もありました。約1カ月の期間は、定年後の私たちにとっては、これから自分が何をやっていくか、いろいろな決断、決心をするのにちょうどよい学びの時間だったのだろうと今は思います。

#### ■ まちプロの活動

その後いよいよ認定をもらって活動を始めることになります。いろいろな活動がありますが、主なものとしては、「まちプロタイム」と呼んでいる、毎日、夕方40分ぐらい、まちプロが2人でチームになって、子供たち、お母さんを対象におこなう音楽や手あそび歌、絵本の読み聞かせなどのプログラムがあります。これが基本形ですが、そのほかにも、お正月の餅つき大会など、20人ぐらいのまちプロが企画、運営していく活動などもあります。そのほかにも、例えば、企業の経理部門に長い間勤めていた方が、スキルを生かして、あい・ぼーとステーションの中での経理を行う事務仕事もあります。いずれにしても、3年たった今、この活動は着実に、確実に、いろいろ増えています。

最近多いのは、マスコミからの取材や講演依頼です。ごく最近の話ですが、NHKの「あさいち」に3月に取材を受けまして、私たちのまちプロ活動が3月末に映像で流れました。いずれにしても、最初、恐る恐る踏み出した活動が、今ものすごく大きくなっているということです。

#### ■ 活動の原動力

私たちシニア男性、子育てに懺悔をもった人たちかもしれませんが、やはり小さな子供たちの笑顔、そしてお母さんとお子さんから「ありがとう」と言われるんです。これが原動力。皆様もサービス関係のお仕事と伺っていますが、きっと一緒なのかもしれません。やはりすてきな笑顔で「ありがとう」なんて言われてしまうと、頑張っちゃおう！となる

ものです。

こんな話があります。子育ては大変疲れますよね。私たちまちプロも、年齢も加わって、肉体的にも大変疲れます。でも家に帰ると、奥様がいうんだそうです。「あなた、何かすごく疲れている割には、生き生きしているわね」、そんな言葉がいっぱい出るそうです。これもまた、私たちまちプロ活動の原動力なんだと思います。

#### ■活動の形は人それぞれ

ではどれぐらいの割合で、私たちが活動をしているかということ、人によって違います。1カ月に1回ぐらいという方もいれば、週4回ぐらい活動する人もいます。何が言いたいかというと、まず、あい・ぼーとステーションが翌月の予定を送ってくれ、それに手を挙げて参加する方式だということです。要は、自分のあいた時間とか、時間の都合のつくときに参加する。中には、プログラムに特別な技術が必要な場合には、その技術（例えばハーモニカ）を持った人が指名されることもあります。いずれにしても、基本は、自分の時間があるときに、手を挙げて活動に参加していくというイメージをご理解ください。

#### ■まちプロとしての自負と思い

私たちまちプロは、「ベテラン企業人が現役時代の名刺で勝負」というキャッチフレーズで応募して、養成講座を受講して、学習して、一步踏み出しました。でも、考えてみてください。最初は、経理しかやったことのないような人たちが、本の読み聞かせや手遊び歌を子供の前で一緒にやるんです。それはもうもう試行錯誤の連続だったと思います。そしてやっていくうちに、さすがに元・企業組織人、臨機応変力をもって、もっともっと笑顔をみたいと活動を続けてきています。

そしてここ最近では、保育園落ちた日本死ねとか、保育士・保育園が足りないといったことが毎日のようにマスコミや新聞で報道されていますね。そういうことから考えると、私たちの活動は、もっと幅が広い、子育ての全般にかかわる活動ではありますが、いっぽうで、いろいろな地区の行政がシニア向けに、孫育てのハンドブックをつくるようになりました。今の社会はその程度なんです。そう考えると、私たちがやっている活動は、もっともっと先、実は時代の最先端をいっているのではないかな、という自負をもっております。

やがて皆さんも必ず定年を迎えられます。そのときには、子育てをやったことのないこういう私たちシニア男性でも十分にできるというモデルになれたらいいな、ということが、今私たちまちプロ全体の思いということになるのだと思います。

さてこの後、私のほかに来ている3人が、それぞれどんな生き方で、あるいは考えや思いで、今活動しているのか、リレートーク形式でお話ししたいと思います。

#### ■まちぷろリレートーク

○武部 寛聡さん

私は63歳まで仕事をして、それから約2年、ブラブラしていたわけです。退職するにあたって、これからはもう決まった時間に会社に行かなくていい、自由な時間がたくさんとれる、これからやりたいことがいっぱいあるぞと思って、仕事をしないことの寂しい反面、うれしさいっぱいのところもあったのですね。でも、もって半年ですね。半年しますと、どこかむずむずしてくるんです。このままでいいのだろうか、サラリーマン生活を送ってきた人間の性といいますか、このままでいいのかなと思うわけです。自由なときに酒飲んだり、自分の家でテレビを見たり…ですが、それではどうしてもやはりむなしいんです。

潜在的には、会社人間というか、生活のすべてが会社だったものですから、社会の役に立ちたいという欲求、社会参加や地域貢献したいという希望は、どこかにあったと思うのです。それを模索はしていたのですが、なかなかぴたり合うところがありませんでした。そんなときたまたま、新聞でまちプロの立ち上げ記念講演を見つけ、参加してみました。参加してみて、なんと、私が求めていたのはこれだ！ということになり、それを契機に講座を受けて、認定をされ、現在に至っています。

今まではこういった子育て支援施設は、女性と子どもだけの世界だったのです。そこに私たちみたいなおじさんがうろうろするわけで、最初のうちは「何だあのおじさんは」と奇異な目でみられたときもありましたが、約3年たちますと、それが風景の一つとして、自然な形でおさまってきています。

そして、子育て支援には、実はもっと男手が必要なのです。たとえば施設の整備といいますか、滑り台がちょっと調子悪い、などという話のときには、やはり私たちの出番があるわけです。先ほど餅つきの話も出ましたが、女性ばかりのときは、いつの間にか立ち消えになったりしていたのが、私たちが入ることによって、また盛り返してきました。毎年もう3年続けてやっているのですが、やはり男手は必要とされているということです。

ところで支援というと「与える」というイメージなんですが、むしろ、いただくものがすごく大きいと思います。例えば、会社員時代、前の晩多少飲み過ぎて二日酔いで頭痛いなどと思っても、会社へ行けば何とかなるんですが、こういうところは二日酔いではちょっと行けない(笑)。行くんだったら、酒臭いわけにはいきませんから、自分自身を律する、

健康管理という面でもいいですね。それに、活動の結果筋力がついたといいますか、特別に何かはやっていないですけども、やはり体幹が鍛えられたりもします。

それともう一つ、最も大事に思うのは、そこでまた今日みたいな仲間が増えるということです。会社のつき合いは非常に限定的なものです。しかしまちプロのメンバーにはいろいろな分野の人がいます。業種も多岐にわたっていますから、その人たちの話を聞くことが非常に勉強になります。それに、活動を通して、仲間意識がうまれてきます。

3年たって、私自身はこの場に踏み出して非常によかったなと思っています。ですから、皆さん方にはもうちょっと先の話かもしれませんが、ぜひ、心のどこか片隅にとめておいていただいて、機会があったら思い出していただけたら、そして今までとは違う世界、ステージに踏み出していただけたらなと思います。

特に難しいことはありません。要は、健康であればいい、それだけです。ぜひご活躍いただけたらと思います。以上です。ありがとうございました。

○山田 邦壽さん

(冒頭に見事なハーモニカの演奏) こんにちは、私はハーモニカのヤマちゃんといわれています、山田といいます。よろしくお願いします。

このハーモニカは、定年退職してから始めてまだ4～5年なんですが、仕事では高校で33年間、社会科の授業をしてきました。今ではすっかりもう地理は忘れて、ハーモニカおじさんになってしまっていますが、どうしてこういうことをやる気になったかという、私が勤めていた学校は、教育混乱校と呼ばれる大変な学校でした。家庭訪問ばかりです。要するに、暴力事件とか、飲酒事件とか、あるいは不登校の生徒とか、1週間に1回は夜の9時、10時まで家庭訪問して…とうとう最後までそういう大変な学校に勤めさせていただくことになりました。別に、そのころにハーモニカを吹いていたわけではなく、たまたま大日向先生に見出されて、何とかここずっと、ハーモニカおじさんで過ごしている次第です。

私がなんで子育て支援に興味をもったかという、やはり家庭訪問をすると、どうも若い親の家庭は、ずっと親が働きづめという環境が多いんです。一方で、問題行動を起こさない生徒というのは、私の全く主観なんですが、おじいちゃん、おばあちゃんに日常的に接している子で、比較的精神が落ちついていて、あまり問題行動を起こさないんです。もしかすると、これに何か関係あるのではないかと、ずっと思っていました。この「老人力」といいますか、子育てにものすごい影響を及ぼす、おじいさん、おばあさんの影

響力というのに、何かひっかかっていたのです。それで、たまたま駅の売店で買った新聞にあい・ぽーとのシンポジウムがあるということを見て、参加しました。

私も現場へ行くと、子供と同じようになってしまって、楽しんでしまうのです。いろいろなことをやって楽しいんです。結局、疲れないし楽しい。それが結果的には、自分の健康にもなっているのかなと思っています。

世の中では、子育て、老人介護はすべて新聞、マスコミでもマイナスのトーンで語られていますよね。私たちシニアも社会のお荷物といわれているわけです。でも、これをマイナスとマイナスを掛け合わせると、プラスになるのではないかと私は思っているんです。ですから、特に若い、子育て中のお父さんお母さんには、私たちをもっと活用していただきたい。子育てというのは、知識だけではなく、深い人生経験というのも必要ですよ。保育士さんを増やす、それももちろん非常に大事なんですが、その一方で、こういう私たちじいさん、ばあさんをもっと活用してもらいたい。

もう一つは、私、年金が本当に少ないんですよ（笑）。結局私たちの世代は、もう死ぬまで働くしかない。ですから子育て支援と、私たちの活動がうまくコラボできれば、私たちの生きがいも増すのではないかと。健康年齢がもっと延びるのではないかと、そうも思っています。

また、『一寸法師』とか『竹取物語』『桃太郎』などの昔話をみると、要するに、小さな子供とおじいさん、おばあさんの対比なんです。これから社会に出て一生懸命頑張れる子供たちと、あの世へ引っ込まなくてはならないおじいさんやおばあさん、そこがうまくかみ合っているんです。もしかしてそこに何か深い意味があるのではないかと、そういう気がしてなりません。とにかく、ぜひ私たちも見捨てないで、皆さん、どうか十分に活用してください。よろしく申し上げます。

○宮内 謙吾さん

先ほどお話しされました、ハーモニカのヤマちゃんの弟子の宮内でございます。まちプロ活動をして、約2年になります。

私は、鉄鋼関係のガチガチの会社で働いておりました、65歳でリタイアして、さて何をしようかと、図書館の支援だとか、海外交流会の活動とか、いろいろ首を突っ込んでみたんですが、なかなかピンとこない。そうこうするうちに、女房が、この子育て支援プロデューサーの講座の記事をみつけまして「ねえ、あなた、こんな記事が出ていますよ。孫もできたことだし、もう家でごろごろされても困るので、ちょっと行ってきたら」と。自分

の子供の子育ても何にもしなかったこの男が、さてどうしたものかと思ったんですが、女房に背中を押されまして、講座を受けました。

受けたら、そうそうたる先生方の難しい講義で、なおかつレポートを書かせる。この年こいて、まだレポートかよと思ったのですが、一度始めたらもう意地ですから、頑張って、講義を受けて、認定証をもらって、恐る恐る活動を始めました。

そうしたら、本当に多種多彩の人々がいて、たくさんの引き出しをもっているわけです。裏技をもっておられるんです。例えば、手づくりのおもちゃを簡単につくられる方がいらっしやいます。私は何にもできない、でも折り紙ぐらいだったらできるかもと急いで図書館へ行って、折り紙の本を一生懸命みて、勉強して、今では鳥だとか猫だとかセミセミだとか、いろいろなものをつくれるようになり、今では子供さん、親御さんと一緒に楽しんでます。これで、自分もちょっと引き出しがふえたかな。ことしは、ヤマちゃんのご指導のもと、ハーモニカを一生懸命やっております。

こうして引き出しがちょっとずつふえたことで、女房が「最近ちょっと人相変わったよ」といってくれるようになりました。本当かなと思っていましたら、つい最近あい・ぼ一とに奥様と娘さんと孫2人で見学に来られた60代の男性から声かけられまして、私をみて、なかなか生き生きとやっておられるからと声かけてくださったんです。そうしたら、彼も近々定年で、少年野球の監督もやったんだけど、これももうそろそろ後輩にバトンタッチしなくちゃいかん。これから何かしたいかなと思っていたので、ぜひこれは次回の講座、受けたいと思いますのでということで、すぐあい・ぼ一とに紹介しました。

このように、あい・ぼ一とで活動したおかげで、私も現役時代は、逆流性胃炎で悩まされていたのですが、子供からの元気ももらっていることもあって、これも解消して、非常に楽しくやっています。ありがとうございました。

#### ■楽しく・面白く・いきいきと

そして私たちは、このまちプロの活動を通じて、気がついたことがあります。3人のお話にも共通する話だったと思いますが、私たちまちプロ自身が楽しくおもしろく、生き生きとやっていること自体が、実はお子さんにとって、お母さん、お父さんにとっても、すごくいい影響を与えるということです。そして同時に、3人の方も話していましたが、自分たちも健康になるんです。私たちシニア男性、いろいろな意味で指標になると、もう分子に入るんですよね。ところが、このまちプロ活動を通じていく中で、できれば分母で、元気でずっと生きていけたらいいなと思っております。

活動のキーワードは「楽しく・面白く・いきいきと」、このようにいえるのではないかなと思います。

#### ■養成講座の紹介

最後に、まちプロ養成講座はどんなものか、最後にお話し申し上げたいと思います。

○あい・ぽーとステーション人材養成室長 古閑 祐樹さん

古閑でございます。今日は、このような機会をいただきまして、まことにありがとうございます。

冒頭でご紹介しましたように、あい・ぽーとステーションでは、地域の方々に参画していただきながら、子育て支援活動を展開しており、そのための人材養成事業も実施しております。あい・ぽーとステーションの人材養成事業は、大きく2つに分けられます。

1つは、子育て、家族支援者の養成、そして、もう一つが、本日これまでご紹介しました子育て・まちづくり支援プロデューサーの養成です。特に、子育て・まちづくり支援プロデューサーは、あえて男性限定となっていることが大きな特徴であり、今年度も引き続き養成を実施していく予定です。

今年度からは、現役世代の方も受講しやすいように、大きく2部構成での実施を計画しております。第1部、第2部のそれぞれに必要な科目が設定される予定です。

まず第1部は、現在の子育て事情や、子供の発達など、まちプロ活動に限らず、子育て支援活動を行う上でも重要となる科目の履修です。あい・ぽーとステーションでは、各自治体と共同で、子育て家族支援者を養成するために、子育て支援員研修を実施しておりますので、その中で必要科目を履修していただきます。この秋にも新たなコースが開講される予定です。複数の自治体で実施しますので、開講時間も自治体ごと、科目ごとに、平日・日中、平日・夜間、あるいは土曜日と、異なる時間帯での履修が可能になる予定です。

そして、講座の第2部が、子育て・まちづくり支援プロデューサーの養成講座です。職業人としての定年を迎えられた方、あるいは定年を迎えるに当たって準備されている方々を対象に、まちプロとして活動していただくには、欠かせない内容の講座です。こちらが、男性限定のオリジナル講座で、地域活動に関する科目や、読み聞かせなどのまちプロ活動としての実践に関する科目、先輩の活動に実際に参加して、まちプロ活動を実体験する実習等も含めて、必要科目を履修していただきます。こちらは、まだ開講時期は未定ですが、本年度の後半に実施を予定しております。

まちプロの養成は、以上の2部構成ですが、ご都合に合わせて、第2部の科目からの履



修も可能です。1部、2部の両方で、必要科目をすべて履修された方から、子育て・まちづくり支援プロデューサーとして認定させていただきます。

講座の受講方法等の詳細は、決まり次第、あい・ぼーとのホームページでもご案内させていただきます。ご関心をおもちの方は、電話、メール等でお問い合わせください。

○福田さん

ただいま、養成講座の具体的な内容についてお話をさせていただきました。ここにいる皆さんはお若いので、まだしばらく先のことですが、皆様、労組の関係の役員と伺っております。それぞれの企業の中で、定年を迎える人たちがいっぱい出てくるはずですが、皆さんのお立場として、情報提供という点でお役に立てればという意味で、最後にご案内させていただきました。

本日は、ご清聴ありがとうございました。